

## 学校自己評価システム取組状況調査報告書

平成27年度

県立学校評価委員会

学校名	埼玉県立新座柳瀬高等学校		Aグループ
項目	調査の観点	取組状況に関する所見	
目指す学校像	目指す学校像は、学校の現状、課題等を踏まえて設定されているか。	単位制の趣旨や特性を踏まえ、目指す学校像が設定されている。やがて開校10年の節目を迎えることから、生徒や地域からの期待など、学校内外の環境の変化などを踏まえ、次のステージに向けた新たな学校像の検討を開始すると良い。その際は、学校の特色や強みを更に生かした具体的かつ魅力あるものを検討していただきたい。	
重点目標	学校が抱える課題の解決に向け、児童生徒の実態など学校の状況を踏まえて、目標の重点化が図られているか。	取り組むべき課題が具体的に示され、日々の教育活動の指針となる目標となっている。学校の置かれた状況などを把握した上で、中期的視点から、更に検討・整理して目標の重点化を進めることが望まれる。	
重点目標達成への取組	重点目標の達成に向けた組織体制が整備され、適切に機能しているか。	学校自己評価システムに基づく取組が動き始めている。本システムを適切に運営するために、教職員全体がベクトルを合わせて取り組めるよう、組織体制の更なる充実と分掌・年次など組織間の連携強化など、一層の工夫をしていただきたい。	
	方策は適切に策定され、効果的に実施されているか。	「ドリルマラソン」や「考査前学習会」など、学力向上に向けた組織的・計画的な取組が増え、成果も見られ始めている。全体的に方策や評価指標が前年踏襲型で、やや抽象的なところがあるので、何を、いつまでに、どの程度行うのかといった具体的な方策を策定するとともに、教職員間でその達成イメージを共有できるような分かりやすい指標を設定することが望まれる。	
	校長の的確なリーダーシップの下、教職員が共通理解を深めながら組織的に取り組んでいるか。	校長の意向が教職員に示されており、県の指定事業にも複数にわたって取り組んでいる。教職員一人一人を的確に生かし、組織力を高めようとする校長の意欲が感じられた。更に共通理解を深め、目標の達成を目指すことが期待される。	
	学校関係者評価等を踏まえて、達成状況や課題を検証し、取組の改善・更新が行われているか。	中間評価を実施して取組の進捗把握をするなど、学校自己評価システムを活用した改善が図られている。学校関係者の意見やアンケート結果等を詳細に分析して新たな課題の析出や方策の見直しを検討するなど、次年度のより具体的な取組につなげ、スパイラルアップを図るようにしていただきたい。	
特記事項			